第六回ハイクアート賞発表！

俳句美術館 第六回 『ハイクアート賞』に多数のご応募をいただき、有難うございました。

『俳句部門』では、八木健の制作したアート九点に俳句をつけてご応募いただきました。『ハイクアート部門』では、アートと俳句の両方をご自身で作っていただいた作品でご応募いただきました。

応募総数は、俳句部門が五四点、ハイクアート部門が一〇六点でした。俳句部門は全てを、ハイクアート部門は一次審査通過作品を審査員にご審査いただき、高得点作品から大賞、選者特選、秀逸、入選の各賞を決定致しました。

俳句部門

大賞

向日葵に真闇ますます濃くなりぬ

埼玉県　稲葉純子

【講評】夜の深まりを詠み、「真闇」によって向日葵の存在感が大きくなった（池田）。向日葵の明るさを、真闇の濃くなることで表現したところが巧み。「向日葵に」として主体を向日葵に置いているかに見せたのも技である（八木）。向日葵の明るさの後ろで暗さを増す闇が見えてくる（松本）。

特選

池田澄子賞

亡き君の魂も招かむ花の宴

奈良県　堀ノ内和夫

【講評】この絵から「花の宴」を思った見事さ。「亡き君」に辿り着く思いに感じ入った。

小西昭夫賞

窓に雪オカリナ教室十二階

東京都　山本　賜

【講評】オカリナ教室が十二階にあることに意表をつかれる。雪のシンプルさとオカリナの素朴な音が織りなす抒情が魅力的。

冨士眞奈美賞

日本が焼かれた日あり原爆忌

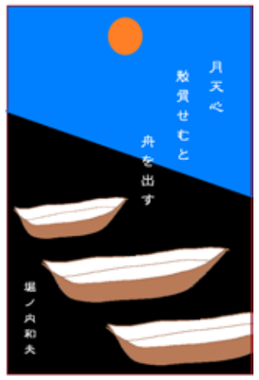
愛媛県　日根野聖子

【講評】大きな太陽を呑み込もうとしているのは海ではなく元安川である。決して忘れてはならない歴史。

松本勇二賞

月天心散骨せむと舟を出す

奈良県　堀ノ内和夫



【講評】天心にかかった月の下、散骨のために舟を出すとは多分に報告的であるが、そのシチュエーションに意外性があり鮮度を得た。

八木健賞

甚平の父と子将棋殺気立つ

兵庫県　井野ひろみ

【講評】甚平を着た仲良し親子の寛いだ風景が、将棋の真剣勝負で一変。平穏な空気を一気に緊迫感に変えた面白さを買った。

秀逸

制服の少女四人に苺パフェ

東京都　山本　賜

【講評】部活の帰りだろうか。盛んなお喋りが聞こえるようだ。苺パフェに少女らの可愛さがある（池田）。

目標はケーキ職人夏季講座

東京都　村上ヤチ代

【講評】受験の講座だろうか。自分の目標はケーキ職人だから、早くそちらの勉強がしたくて夏季講座に身が入らない。そんな生徒を想像して可笑しかった（小西）。

帰らない舟を待つ舟夏の月

東京都　山本　賜

【講評】舟に意識を持たせて成功している。無事に帰った舟の気持ちに合わせた夏の月が、哀感を増長している（松本）。「帰らない舟」のことを思っていることに、読者としてはっとさせられた（池田）。

姦しき寡婦の集へる聖歌隊

東京都　村上ヤチ代

【講評】女性たちの楽しげな表情、賑やかなお喋り、華やかな衣装と元気いっぱいの声が聞こえてくる（八木）。

月天心眠れぬ舟をあやしけり

埼玉県　稲葉純子

【講評】この擬人化、このアート、うっとりします。実に美しい（冨士）。「あやす」という言葉に波の揺らぎが上手く表現された。作者の優しさが読者を優しくさせる（八木）。

入選

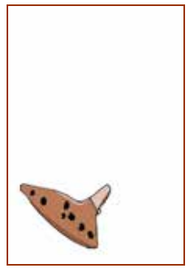
アート① 椿

私もとあせつて落ちた紅椿　山本　賜
ブルータスお前もか椿落つ瞬間に　稲葉純子

アート② 春

光り帯び呼吸してゐる春野かな　稲葉純子

アート③ オカリナ



アダージョは君の楽曲日脚伸ぶ　赤瀬川至安
ジブリの曲を吹いてくれたね秋　西田真己

アート④ 向日葵

向日葵の敵に後を見せざりき　久松久子
向日葵に悩みの種の重きこと　工藤泰子

アート⑤ 苺

諍ひのくすぶり苺押し潰す　青木かずこ

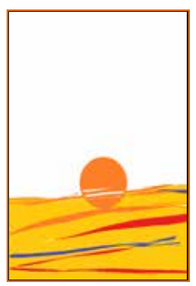
アート⑥ 舟

寒月や柩となりし北の舟　山口　徹

アート⑦ クリスマス

百均の星を散りばめクリスマス　稲葉純子
父さんも母さんもゐたクリスマス　西田真己
第一話は加賀美幸子や夜の長し　山口　徹

アート⑧ 太陽



太陽が威張り放題夏休み　日根野聖子
夕焼や海には永遠に裕次郎　山口　徹

アート⑨ 父と子

蛇穴を出づ好きにしたらと言はれけり　赤瀬川至安
栗の花覚えの在りし反抗期　村上ヤチ代
以心伝心父と子同じ昼寝覚　稲葉純子
気の長い似たもの父子小六月　石塚柚彩

ハイクアート部門

大賞

青き夜の宇宙交信花八ツ手

東京都　青木かずこ（切り紙）

【講評】
まさか花八ツ手が夜、宇宙交信しているとは！　発想も丁寧なアートも美しく面白くなんといっても一位（冨士）。地味でほとんど目立たない花の周囲であれば、妖精が現れ宇宙と交信しても不思議はない。上五の「青き夜」が上手いし、アートもバックの青が効いている（松本）。「青き夜の」のロマンチックな場面設定が成功。形の不思議を宇宙交信と捉えたことにも共感。妖精を描いて物語がありアートも緻密で完成度が高い（八木）。

特選

池田澄子賞

いい星に生まれたもんだ秋うらら

東京都　貞住昌彦（写真）

【講評】
カマキリの呟きとして詠まれていること。それも逆さになっている姿。そのセンスが素晴らしい。句の中で、カマキリと言っていないセンス。断トツの作。

冨士眞奈美賞

春光や椎の大樹の目覚めかな

東京都　貞住昌彦（写真）

【講評】
割れた種から木の芽が出ている！　思わず笑って感動。切れ字が二つありますが、戴きました！

小西昭夫賞

台風が海をねじってやってくる

愛媛県　沖浪悠太（切り絵）

【講評】
大胆に単純化した図案が俳句によって引き立てられている。「台風が海をねじってやってくる」という表現が新鮮である。
切り絵に配置された文字のバランスもいい。

松本勇二賞

豌豆の莢むく祖父の手深いしわ

愛媛県　青井慧美（切り絵）

【講評】
俳句の方はいかにものお爺ちゃん俳句であるが、アートと合わさると力強くなった。巧みな省略による切り絵と、しわに焦点を絞った俳句がうまくかみ合っている。

八木健賞

うるさきものに野良犬と揚花火

愛媛県　久我正明（写真）

【講評】
「見ざる言わざる聞かざる」の猿を思わせる石の彫り物に、世捨て人風な軽さがある。「うるさきものに野良犬と揚げ花火」だから世俗との交わりを拒絶しているのは明白である。石の置物を擬人化して滑稽な句となった。

秀逸

君を想えばピンクに見える春の雲

愛媛県　玉乃井龍馬（切り紙）

【講評】君を想わなければ、ピンクに見えないのではなく、空なんか見ないのでしょう。覚えあります（池田）。何を思ったのか、感じたのか、俳句には「精神の記録ツール」としての機能がある。思い込みは俗に言う「のろけ」だが、憶するところのない断定が清々しい（八木）。

このひとの浴衣姿にほれなおす

愛媛県　椋名文音（切り紙）

【講評】絵と句がバッチリ！（過ぎる）。でもコレもアリかなと思わせる幸せそうな絵。うーん、コレも覚えあるなあ、私（池田）。

心太つるんと青き日本海

愛媛県　久我正明（写真）

【講評】今、人気の山口県長門市にある元乃隅稲成神社ですね。「赤」や「鳥居」の言葉を使わずに一句を仕立てのはお見事。連続する鳥居からの心太の発想がユニーク（小西）。絵と句の離れ方が足りないとも思うけれど、いかにも「つるん」。心太と赤い鳥居が微妙に通い合っている（池田）。

ふり返るすれ違いたる香水を

愛媛県　戸田麻子（切り絵）

【講評】水色の花模様は香水の香り。これが俳句をよりピュアーにしている（小西）。

夕虹や水の地球に読書灯

愛媛県　久我正明（写真）

【講評】少々、印象的過ぎ、言葉が一人歩きして主張し過ぎとも思うが、素晴らしいシャッターチャンス（冨士）。

入選

現実をさえぎるためのサングラス
愛媛県　横川大樹（切り絵）

【講評】サングラスの機能を、「現実をさえぎるため」ときっぱりと言いきって成功した（八木）。

もてもての紅一点のチューリップ
福島県　石塚柚彩（写真）

【講評】写真、面白し。ホントですかあ？　一本だけ赤く塗ったのでは？　写真に俳句ぴったり。赤いチューリップになりたい！（冨士）。

朝霧や龍の這ふごと村襲ふ
奈良県　堀ノ内和夫（ペイント）

【講評】霧に閉じ込められた集落の様子が浮かんでくる。「龍が這う」との喩えが秀抜。霧に生命力があった（松本）。

鱗雲さかな食べたくなる雲です
愛媛県　江戸なず菜（切り絵）

見上げればどこまで高き入道雲
愛媛県　宮崎昴希（切り絵）

梅雨長し犬の散歩の仕方なし
愛媛県　大川永遠（切り絵）

この季節私もなるよなめくじに
愛媛県　坪内優香（切り絵）

ケロケロと寝入りを邪魔するカエルかな
愛媛県　石川慶太（切り絵）

鈴蘭の日本の別名君影草
愛媛県　高村知紗（切り絵）

家飛び出て梅雨なの忘れて雨ざらし
愛媛県　アルパカ（切り絵）

桜散りさよなら言えずお別れを
愛媛県　玉城萌々子（切り絵）

審査員紹介

池田澄子
豈同人・船団同人。句集『たましいの話』『拝復』『思ってます』、著書『休むに似たり』『あさがや草紙』他。

小西昭夫
子規新報編集長、愛媛新聞俳壇選者。著書『花綵列島』『ペリカンと駱駝』『小西昭夫句集』他。

冨士眞奈美
俳人。俳壇賞選考委員。女優。句集『寵の裏』、エッセイ『東京俳句散歩』『身ひとつの今が倖せ』『てのひらに落花』他。

松本勇二
愛媛県俳句協会会長、「虎杖」代表。

八木　健
俳句美術館館長、滑稽俳句協会会長、「八木健の俳句遊遊」番組主宰。句集『ゆず』『逃水』『滑稽俳句集』、著書『俳句 人生でいちばんいい句が詠める本』他。

第7回ハイクアート賞募集要項

1. 俳句部門…八木健のアートに俳句をつけてください。
2. ハイクアート部門…ご自身のアートに俳句をつけてお送り下さい。

募集期間：平成31年4月1日～平成31年7月31日
審 査 員：池田澄子　小西昭夫　冨士眞奈美
　　松本勇二　八木健
結果発表：平成31年10月下旬予定。
主　　催：俳句美術館　（問合せ 090-8287-1390）

＊作品はオリジナルのもので未発表に限る。
＊募集内容の詳細は、俳句美術館ホームページに、平成31年2月末頃掲載予定。「俳句美術館」で検索可。
http://wwwhakubjutsukancom
＊応募作品の著作権は主催者に帰属。